



平成 26 年 11 月 28 日

各 位

会 社 名 株式会社 トップカルチャー  
代表者名 代表取締役社長 清水 秀雄  
(コード番号 7640・東証 第1部)  
問合せ先 取締役 管理部長 遠海 武則  
T E L 025-232-0008  
<http://www.topculture.co.jp>

### 業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成 26 年 11 月 28 日付の取締役会書面決議に基づき、平成 25 年 12 月 5 日に公表いたしました平成 26 年 10 月期（平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 10 月 31 日）の通期業績予想を修正するとともに、特別損失を計上することとしましたので、その概要をお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 通期業績予想の修正

###### (1) 平成 26 年 10 月期 通期連結業績予想数値の修正（平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 10 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	38,500	1,090	1,020	560	46.66
今回修正予想 (B)	33,896	168	106	△522	△43.54
増減額 (B-A)	△4,604	△922	△914	△1,082	—
増減率 (%)	△12.0	△84.6	△89.6	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 25 年 10 月期)	34,781	482	303	115	9.62

###### (2) 平成 26 年 10 月期 通期個別業績予想数値の修正（平成 25 年 11 月 1 日～平成 26 年 10 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	37,600	1,010	560	46.66
今回修正予想 (B)	33,042	118	△642	△53.48
増減額 (B-A)	△4,558	△892	△1,202	—
増減率 (%)	△12.1	△88.3	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 25 年 10 月期)	33,884	440	122	10.21

###### (3) 業績予想修正の理由

平成 26 年 10 月期における映像レンタル部門の基本戦略は、レンタル料金の単価引き下げにより、競合に対抗すると共に、来店客数の拡大と他部門の売上高増加を図るというものでした。この戦略

を実行した結果、来店客数およびレンタル貸出本数の増加は達成できましたが、料金単価引き下げによる売上の減少を埋めるには至らず、他部門売上高との相乗効果も想定を下回る結果となりました。また、下記の「2. 特別損失の計上について」のとおり、特別損失を 846 百万円計上することになりました。

以上の2点により、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも当初の予想を下回る見込みであります。

## 2. 特別損失の計上について

当社は、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性が低下している店舗について今後の売上計画を精査し、回収可能性を検討した結果、固定資産に対する減損損失 821 百万円を特別損失に計上いたします。併せて、リース解約損 25 百万円につきましても特別損失に計上いたします。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以上